



我々が取り扱うマテリアルと幅広い用途

部会	希土類	シリコン	タンタル	核燃料加工	ジルコニウム	ターゲット	ベリリウム	化合物半導体
関係元素・マテリアル	RE(Sc,Y,La,Ce,Pr,Nd,Sm,Eu,Tb,Dy…)	Si	Ta	U	Zr	In,Sn,Ta,Ti,Al,Cu,Mo,W,Co,Cr,Ni,Te,Ge,Sb,Si,Au,Ag,Pt…	Be	GaAs,GaP,InP…
主要用途 (含中間製品)								
自動車 (HV、EV)	●	●	●		●		●	●
化学プラント	●		●		●		●	
エアコン	●	●					●	
宇宙・航空	●	●	●				●	●
原子力発電・火力発電	●	●	●	●	●		●	
風力発電	●	●						
太陽電池	●	●				●	●	●
携帯電話	●	●	●			●	●	●
薄型テレビ	●	●	●			●	●	●
パソコン	●	●	●			●	●	●
ニッケル・水素電池	●							
半導体	●	●	●			●	●	●
磁石	●							
コンデンサー	●	●	●		●	●		
LED	●	●				●	●	●
レンズ・ガラス	●		●			●		
触媒	●				●			
塗料・顔料	●				●			

新金属協会の概要

一般社団法人 新金属協会は、昭和31年に母体となる「日本希元素協会」から始まり、新金属産業分野の業界団体として、会員企業と共に様々な機能に富んだ金属素材の開発と需要創出、拡大に取り組み、その間幅広いユーザー企業に対し需要に応じた高機能材料・部品を提供してまいりました。

現在、協会は、「希土類（レアアース）」 「シリコン」 「タンタル」 「核燃料加工」 「ジルコニウム」 「ターゲット」 「ベリリウム」 「化合物半導体」の8部会で構成されており、各部会毎の活動に加えて異業種プラットフォームとして大いに活用されています。我々が取り扱うマテリアルは、我が国基幹産業に幅広く使われています。

半世紀前と比較すると新金属産業の市場規模は約2,000倍、2兆円規模に達し（2007年）、成長を遂げてきました。それに対し新金属部素材を使用する最終製品産業（製造業）が日本国内で生み出す付加価値（GDP）は100兆円近くに達するとみられます。こうした発展は、戦後の材料科学の発展を受けて会員企業がユーザー企業とも連携し、部素材の経済的な工業的製造法を開発した努力も大いに貢献しています。

それぞれの新金属産業は、小さな市場規模で、構成する企業数も少なく、産業としての規模は大きくありませんが、用途が幅広く、その多くは我が国基幹産業の製品であり、大きな付加価値を生み出しています。我が国の産業構造上重要なサプライチェーンの中で、我々が取り扱うマテリアルは、今後とも産業競争力を強化していく上で不可欠の部素材です。

社会への貢献と課題

新金属産業における安全面の取り組みについては、協会内に横断的組織として、「安全委員会」を設け、リスクアセスメント分野の知見の共有、安全文化の醸成等の活動を実施しております。今後とも協会の取り組むべき最優先事項として、進めてまいります。

現在、地球環境問題、第4次産業革命、IoT等、製造業を巡る環境は大きな転換期にあり、我々が取り扱うマテリアルに対するニーズも大きな変化が予想されています。加えて新金属産業をとりまく内外環境においても、資源価格変動、電力価格高騰、ISO・材料規格を巡る動き、再利用等抱える課題もまた日々変化しています。協会では、こうした状況を踏まえ、金属素材をより高付加価値で安定的に供給するため、技術開発や基盤の強化及び新たな有用な素材の発掘を目指して、従来からの部会活動に加え、業種の枠組を超えた横断的分野においても、積極的に事業を展開していきます。

- ・競争力強化
- ・グローバル戦略
- ・サプライチェーン強靱化
- ・安全文化の醸成
- ・地球環境保全

